ご挨拶「夢」

内部統制本部長
上田 和規

「新年明けましておめでとうございます」

新型コロナウイルスの世界的流行が始まってから3年が過ぎ、昨年は、1月に第6波、7月に第7波をむかえ、11月には第8波に入り、感染拡大は未だ収束には至っておりません。

また、この間に社会環境もウィズコロナ、アフターコロナへと大きく変わりつつあり、私たちの生活様式もコロナ前とは大きく様変わりし、コロナ対策はあたり前の世の中になったと感じています。

現在もオミクロン株の流行により、コロナの第8波が続いておりますが、オミクロン株は強い感染力を持っていますので、引き続き、3密の回避、マスクの着用、手洗いの消毒、こまめな換気など徹底した感染予防対策に努めていくことで、本年こそ、コロナ禍の中においても、本来の日常生活を取り戻していけることを切に願うところであります。

当法人は、今後も泉州地域の基幹病院として、地域医療と感染症医療に対しても病院一丸となって取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。

今から53年前(1970年)に大阪で、「人類の進歩と調和」をテーマに、万博が開催されました。当時、幼かった私は父親に連れられ見物したようですが、何も覚えておらず、お土産に万博のシンボル「太陽の塔」の貯金箱を買ってもらった記憶だけが残っています。今から2年後には、再び大阪で、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに万博が開催されます。今後、コロナが早く収束して、世界中の多くの人たちに来ていただき、盛大な万博になることを願っています。そして、ささやかな夢ですが、今度こそ、万博見物を記憶に残したいと思っています。

ご挨拶「夢」

副病院長・
診療支援局長
(兼)外科主任部長
がん治療センター長
種村 匡弘

りんくうのこれから『高く目標を掲げて』

新年あけましておめでとうございます。2023年の干支は『癸卯(みずのと・う)』であります。中国の古い思想である「陰陽五行思想」によると、癸卯は寒気が緩み、萌芽を促す年になるようです。コロナ禍以降、停滞し続けていた世の中に、そろそろ希望が芽吹く春がやってくる年にしたいと考えています。

2023年はウィズコロナへと意識が移行し、病院経営が一層厳しくなる時代を迎えると考えられます。現在の日本の診療報酬制度では大きな黒字化は難しいと思われますが、ある程度の経営感覚をもって真摯に取り組めば赤字にはならないと考えています。医療機関の一丁目一番地は〝良質な医療の提供〟が第一であり、それができれば患者さんの信頼を得ることができるはずです。良質な医療提供と健全経営の両輪を確実に回すことが重要であると考えています。2023年は『高く目標を掲げて』、真に求められる病院を目指していきたいと考えています。

当センターが取り組むべき目標の第一は、当然、良質な医療の提供です。そのためには安全な医療の確保が必須であり、インシデントレポートが多いほど医療の質と安全は向上します。医療安全管理体制については外部評価などを行い改革に向け進めてまいりたいと思います。第二は、健全経営の実践です。赤字を出さないために経費を削減するという従来型のマイナス発想ではなく、良質な医療を提供することを第一に健全投資を進めてまいります。当センターでは内視鏡手術支援ロボット・Da Vinci Surgical Systemを導入、さらにハイブリッド手術室の増設がその一翼を担うと考えています。第三は、現場目線での医療DX(デジタルフォーメーション)を進めてまいります。現場がどのような情報システムを求めているのか?各部署のニーズを汲み取り業務効率化の実現を目指していきます。また医療機関へのサイバー攻撃対策も強化する必要があります。第四は、『医師の働き方改革』に伴う時間管理の徹底とタスク・シフト/シェアの推進です。例えば、私の専門である消化器外科領域では、外科医は手術だけでなくICUでの術後管理まで含めて〝外科医の仕事〟であったものが、タスク・シェアにより手術に専念できるようになります。このような業務効率化により医療安全や病院経営の観点からもメリットが大きいと考えています。

2023年も当院は地域から信頼され、必要とされ続ける『りんくう』であるために、さらに職員からは『りんくう』に勤めて良かったと言われる組織を作り上げていきたいと考えています。

ご挨拶「夢」

診療局長
(兼)心臓血管外科主任部長
臨床研修副センター長・
ICU/CCUセンター長・
心臓・血管センター長・
医療安全管理室長
舩津 俊宏

「新年明けましておめでとうございます」

2020年の元旦には、まだそこまでの危機感がなかった新型コロナ感染症が、2020年、2021年と次々に感染者増の波をもたらし、昨年は一日あたり過去最多の感染者数を更新しました。今年こそは、政府の方針転換や集団免疫の効果などで、コロナに煩わされない一年になることを切に願うばかりです。しかし昨年我々医療界においては、新たな感染の恐怖を目の当たりにする事件に震撼しました。大阪府立急性期総合医療センターで発生した、ランサムウェア感染による電子カルテ機能の停止、乗っ取りです。旧式の紙カルテ運用やレントゲンフィルムを廃止し、電子カルテ端末上でのみ患者情報を扱うようになった昨今の医療機関において、電子カルテの機能停止がいかに深刻な影響を及ぼすかを思い知らされました。当センターでもしっかりとした対策を講じ、この地域の医療の根幹が揺るがされないよう取り組んでまいります。さて、今年も診療局では泉佐野泉南地域における医療の中核としての役割を果たすべく、地域に信頼され続ける医療センターであり続けるよう、各診療科がさらに一層の努力で取り組んで参る所存です。今年一年も何卒よろしくお願い申し上げます。

医師として、はや30年目を迎え、もはや医師個人としての夢や未来を語る世代ではなくなりました。しかし私生活では、人生100年時代とすると余命半分弱を残し、まだまだ夢を持って生き進んでいきたいと思います。無事仕事を勇退したのちは、日中は趣味のゴルフに精を出し、夜はもう一つの趣味である野球観戦を楽しむ毎日が送れれば最高と思っており、そのささやかな夢を励みに、日々勤務しております。